

Market Flash

Merry Christmas !



2022.12



日本アルプス電子 株式会社
NIHON ALPS ELECTRONICS CO.,LTD.



今年の漢字に「戦」

「戦」が選ばれたのは、アメリカの同時多発テロ事件などがあった2001年以来、2回目。

「戦」を選んだ理由としては、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻など戦争を意識した年であったことや、円安・物価高など生活の中での「戦い」を多くの人が体感したことなどがあげられる。またサッカーワールドカップの日本代表が強豪のドイツやスペインを破ったほか、冬の北京オリンピックで日本人選手が活躍するなど、スポーツの熱戦が繰り広げられたこともあげている。

余談であるが、ワールドカップのベスト8をかける「戦」いで日本の夢を打ち砕いたウクライナが、3位決定戦でモロッコを破り銅メダルを獲得した。たればで、単純に比較できないが、日本がその場にいたかもしれないと思うと、次回のワールドカップへの期待が募る。

1位	「戦」(セン/いくさ・たたかう・おののく・そよぐ)	10,804票(4.83%)
2位	「安」(アン/やすい・やすんじる・いずくんぞ)	10,616票(4.74%)
3位	「楽」(ガク・ラク・ゴウ・ギョウ/たのしい・たのしむ・かなでる・このむ)	7,999票(3.57%)
4位	「高」(コウ/たかい・たか・たかまる・たかめる)	3,779票(1.69%)
5位	「争」(ソウ/あらそう・いさめる)	3,661票(1.64%)
6位	「命」(メイ・ミョウ/いのち・おおせ・みこと)	3,512票(1.57%)
7位	「悲」(ヒ/かなしい・かなしむ)	3,465票(1.55%)
8位	「新」(シン/あたらしい・あらた・にい・さら)	3,070票(1.37%)
9位	「変」(ヘン/かわる・かえる)	3,026票(1.35%)
10位	「和」(ワ・オ・カ/やわらぐ・やわらげる・なごむ・なごやか・なぐ・あえる)	2,751票(1.23%)

さて、今年の漢字のベスト10を見ると、

「戦」のほか「争」「高」「悲」「変」など、どちらかというとき暗い後ろ向きの漢字が選ばれていた一方で、「楽」「新」「和」など前向きな感じも選ばれている。

特徴的なのが新型コロナを連想させるものはなく、新型コロナから脱出して、旅行を「楽」しみ、「新」しく前進するといったことを連想させる明るさがみられることだ。

今年はロシアのウクライナ侵略という世界的に悲しい出来事が人類を取り巻く環境を大きく変えつつある。民主主義VS権威主義、エネルギー問題、インフレなど個人の生活レベルにまで大きく影響を及ぼしている。新しく迎える2023年は、「戦」「争」の文字が消え、もっと明るい感じが選ばれることを心から念じたい。

<流行語大賞>

村神様 (「ヤクルトスワローズ村上選手」)

最年少で三冠王を獲得。公式戦の最終戦で王貞治さんの記録を超える56号のホームランを打つところなど、まさに神がかり。史上初の5打席連続ホームラン、2試合連続満塁ホームラン、通算150本塁打・・・そのすべてが最年少での記録であった。

現代用語の基礎知識 選

NEWS 2022 ユーキャン新語・流行語大賞

年間大賞 村神様

トップテン

■キーウ

■きつねダンス

■国葬儀

■宗教2世

■知らんけど

■スマホショルダー

■てまえどり

■村神様

■ヤクルト1000

■悪い円安



■キーウ

ロシアによるウクライナ侵攻は終わりがみえない。

そんな中、ウクライナへの「連帯」も広まり、政府によりウクライナの地名をロシア語読みから「ウクライナ語読み」に変更することが発表され、発音・表記の変更が行われた。

■きつねダンス

北海道日本ハムファイターズのファイターズガールによる応援ダンスが「きつねダンス」。

原曲・元曲は、ノルウェーの兄弟ユニット・イルヴィスが歌う「The Fox (ザ・フォックス)」。

親しみやすさや繰り返し聴きたくなる中毒性が話題になった。

■国葬儀

国葬を定めた戦前の法律である国葬令は47年12月末で失効、現在の日本に国葬の根拠は存在しない。

戦前の国葬ではなく内閣府の行う国の儀式としての「国葬儀」とすることを閣議決定し、ただの儀式として法的にも弔意を強制するものではないとした。

奇しくも、エリサベス女王崩御によりイギリスでは9月19日に「国葬」が、東京では27日に元首相の国葬儀が行われた。

■宗教2世

「特定の信仰・信念をもつ親・家族とその宗教的集団への帰属の下で、その教えの影響を受けて育った子ども世代のこと」（宗教社会学者・塚田穂高）。

2010年代後半から当事者の側からSNSを中心に使われるようになった呼称。元首相銃撃事件後に容疑者の背景からいっそう注目されることとなった。

■知らんけど

文末に付けて、断定を避け、責任も回避する言い方。

関西の人の口ぐせでもあり数年前から使われていたようだが、ここへきて関東でも目立つようになった。

責任逃れというだけでなく、すべてをひっくり返すような面白さを若い世代が感じて話題になっているようだ。

■スマホショルダー

男女の幅広い世代で流行した、肩からスマートフォンを斜め掛けできるアイテム。

形状はスマホケースにストラップが付いたシンプルなものから、コインやカードを格納できるものまでさまざまある。

「手ぶら女子」という言葉も登場、財布の小型化など外出時の荷物が少なくなる傾向が続いている。

■てまえどり

食品ロス軽減の観点から、スーパーなどで商品棚の「手前」から商品を選んでもらうようにする啓発運動のこと。

つつい消費期限の長い、棚の一番奥のほうから商品を取りたい衝動に駆られることも多いが、意識を変えて手前から選ぶようにしたい。

■Yakult (ヤクルト) 1000

ヤクルトが発売する乳酸菌シロタ株入りの宅配飲料・ヤクルト1000（21年4月より全国発売）と、その店頭向け商品であるY1000（同10月）が発売直後から品薄を引き起こすほどの人気商品となった。

■悪い円安

22年の日本経済をおそった物価上昇。賃金が上がらない中での物価上昇により国民生活が厳しく圧迫されている。円相場は1ドル＝150円台まで下がり、およそ30年ぶりの円安。

世界的なインフレ、コロナ禍、ロシアのウクライナ侵攻、急速な円安を背景に、食料品、日用品、電気、ガスなどあらゆる分野で値上げも相次いでいる。



<2022年のヒット商品> 日経トレンディが選んだベスト30

今年は、巣ごもり消費のヒットの主役が「時短」から「癒やし」にシフトした。メーカーが多種多様なアイデアで家中商品を市場に投入した中で、22年に大きな山を築いたのが「睡眠の質向上」だ。近年は睡眠についての研究が進み、良質な眠りの重要性が知られるようになってきている。そこに2年以上に及んだ「コロナ疲れ」の蓄積疲労が追い打ちをかけ、「きちんと眠って心身を回復させたい」と感じる人が潜在的に増えていた。

さらに、睡眠が「エンタメ化」したのも新潮流だ。その筆頭が、入手困難で入荷時には争奪戦が繰り返されるほどだった「Yakult1000/Y1000」。

「熟睡しすぎて悪夢を見るらしい」という噂が拡散したこともあり、爆発的に売れた。睡眠の質を改善するとうたうドリンク剤「アリナミンナイトリカバー」や、耳を温める安眠グッズ「ナイトミン 耳ほぐタイム」などは、SNS上で体験談が広がって、「試してみたい」とエンタメ感覚で手を伸ばす人が連鎖的に増えた。

手軽に生活に取り込める低価格な商品が多かったのも、市場拡大に一役買った。

2022年ヒット商品ベスト30	
順位	製品などの名称
1	Yakult1000/Y1000
2	ちいかわ
3	PCM冷却ネックリング
4	トップガン マーヴェリック
5	完全メシ

「キャンプ」も今年の流行りとなった。キャンプ女子やタレントのキャンプ生活が話題になった。キャンプ用品に参入したワークマンは、通販をベースとしつつ圧倒的な安さで支持を得た。これは新型コロナの影響でもある。今はホテルの新設よりもキャンプ場、コテージ型ホテルの増設が相次いでいる。

レトロブームも今年の特徴だ。長らく続く昭和・平成レトロブームの集大成と言わんばかりに、一度流行した商品の「続編」も売れた。ただの再販ではなく現代に合わせて再設計したことで、かつてを懐かしむ大人層と新鮮さを感じる若年層の両取りが大ヒットにつながった。育成ゲームの玩具「たまごっち」は、スマートウォッチ風の「Tamagotchi Smart」となり、タッチセンサーなどの機能が追加。36年前の作品の続編として公開された映画『トップガン マーヴェリック』は、前作を超える迫真のアクションシーンでリピーターを生み、“追いトップガン”現象を引き起こした。

【1位】 Yakult1000/Y1000

睡眠改善をうたう新乳酸菌飲料が社会現象に。「悪夢を見る」との噂拡散で争奪戦勃発。店頭用の「Y1000」は、1日当たり41万本を販売（左）。

ヤクルトレディなどが販売する「Yakult1000」は、1日当たり180万本を販売（右）



【2位】 ちいかわ

SNS発のキャラが“国民的キャラ”に成長。かわいいだけではなく多様な展開で魅了。2022年4月から放映する『アニメ ちいかわ』（フジテレビ系列）。

アニメで流れる歌も人気で6月にデジタル配信を開始した（上）。

2021年2月から発行されている『ちいかわ なんか小さくてかわいいやつ』

（講談社）は、Twitterで連載する漫画を書籍化。22年7月に4巻目が発刊された（下）





【3位】PCM冷却ネックリング

24～28度で凍る新冷感グッズが“瞬間蒸発”。「行動制限なし」の夏のお守りとしてブレイク。

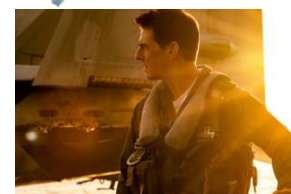
大人用や子供用などサイズは様々。カラーバリエーションや模様も豊富で、使用シーンや服装に合わせて選べる。

写真の商品はアイスリング（F・O・インターナショナル）



【4位】トップガン マーヴェリック

36年ぶりの続編がまさかの興収132億円超え。若者もはまった“追いトップガン”現象。興行収入132億円を突破。



【5位】完全メシ

ジャンクな装いのバランス栄養食品が計400万食。

「意識高くない」30～40代男性の心に刺さる。

カップライス「日清カレーメシ」の完全メシ版である

「カレーメシ 欧風カレー」（これは本当においしい!）



【6位】炭酸飲料対応ボトル

国内メーカーの保冷ボトルがついに炭酸対応。

外出ムードも後押しし約36万本の市場が誕生。

真空断熱炭酸ボトル（タイガー魔法瓶）は

0.5リットル、0.8リットル、1.2リットル、1.5リットルの4タイプがある



【7位】翠ジンソーダ缶

踊り場のレサワブームの中、突如現れた新星。居酒屋メシに合う食中酒が350万ケース。

年末に累計350万ケースを達成する見通し



【8位】日産サクラ/eKクロス EV

4カ月で計3万6600台超を受注。補助金で「200万円の壁」を越えて軽EVが快走。

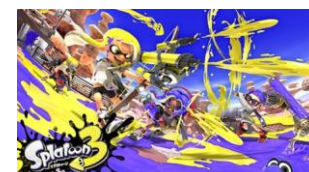
「日産サクラ」だけで、2022年9月24日に受注台数が3万台を突破した



【9位】スプラトゥーン3

発売3日で345万本の最高記録を樹立。“初心者歓迎”のポップなシューティング。

パッケージとダウンロード版の合計で発売3日間で345万本を国内で販売。



【10位】冷やし中華

「氷入りでレンチン」の衝撃で200万食超。

麺の食感と簡便さも受けた夏の新冷食。

9月までの販売で200万食超を突破した



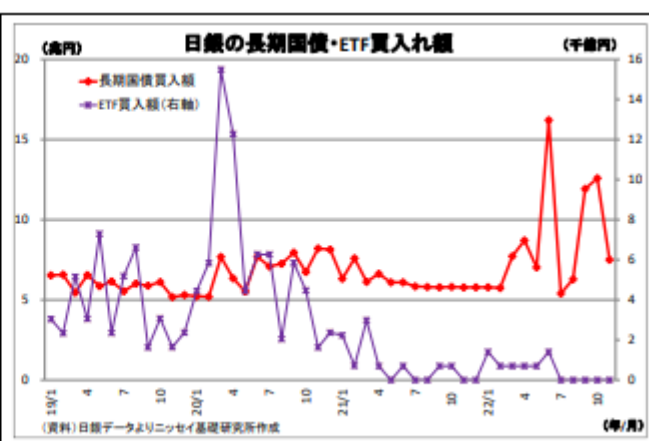


2022年の金融市場動向を振り返ってみよう。ニッセイ基礎研究所のレポートがコンパクトによくまとめられているのでそれを抜粋する。

まず、2022年のこれまでの金融市場の動きを振り返ると、日本株（日経平均株価）は年初 28700 円台でスタートした後、一進一退の展開となり、足元（11月末）では 27700 円台と年初をやや下回る水準にある。総じて上値の重い展開となった。

上値を重くした直接の原因として挙げられるのは日本株との連動性の高い米国株の下落だ。米国で予想を大幅に上回るインフレが進み、インフレへの対応として FRB が急速な利上げを続けたことで米国の市場金利が急上昇し、景気減速懸念が強まるとともに株価の割高感が高まったことが米国株を押し下げた。

そして、米国株の下落によってリスク許容度が低下した外国人投資家が日本株を売り続けたことが日本株の逆風となった。2020年に外国人投資家の売りが強まった際には ETF を大量購入して日本株を支えた日銀が、昨年3月以降 ETF を殆ど買わなくなったことも日本株低迷の一因になった。日本国内でも遅ればせながらコロナ禍からの経済活動の再開が進められたことや大幅な円安が進んだことは日本株の追い風となったが、米国からの下落圧力の影響が上回った形だ。

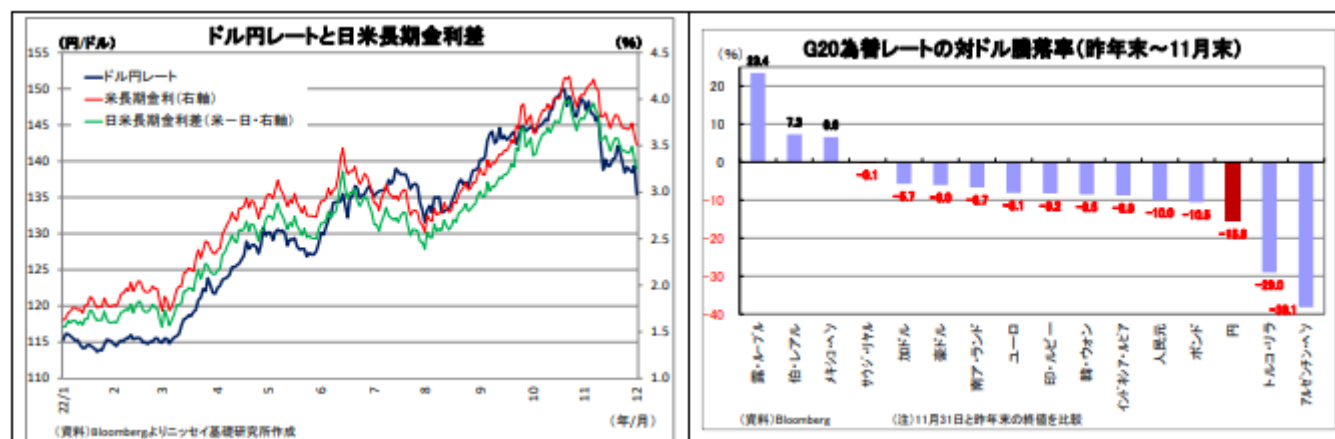




一方、ドル円レートは年初 1 ドル 115 円台でスタートした後、ほぼ一本調子で大幅な円安ドル高が進み、10月21日には 151 円95銭に到達した。既述の通り、米金利が急上昇する一方で、日銀によって国内金利の上昇が大きく抑制されたことによって日米の金利差が急拡大し、急速な円安ドル高の原動力となった。また、海外の資源高などを受けて日本の貿易収支が大幅な赤字となったことなども実需の円売りを通じて円安の流れをサポートした。なお 9 月以降は、政府・日銀が 24 年ぶりとなる円買い介入を実施したが、相場の流れを変えるまでには至らなかった。

黒田総裁が主張するように、確かに今年の為替相場は米利上げを背景とするドル高の色彩が強く、ドルは多くの通貨に対して上昇している。ただし、G20 構成国・地域の通貨について対ドルレートの年初来騰落率（11 月末時点）を見ると、円の下落率は第 3 位と相対的にも下落率が大きく、円安の色彩も強い。利上げを進める他の多くの国とは逆に、日銀が国内金利の上昇を強力に抑制したこととで、日米金利差の拡大が増幅されたことが主たる要因と考えられる。

一方、10 月末以降は円安ドル高の流れが反転し、急速な円高が進行している。FRB 高官発言や物価指標の鈍化を受けて、米利上げペースの鈍化観測が急速に台頭し、ドル安圧力が高まったためだ。しかし、それでも足元の水準は 134 円台と、年初から 20 円程度も円安の水準にある。以上のように、今年の日本株下落と急速に進んだ円安ドル高は米国の急激なインフレと急速な利上げが発端であり、今年の金融市場は「米インフレと利上げに翻弄された一年」と総括できる。





この1年、このレポートを読んで頂き誠にありがとうございました。

締めくくりとして、恒例の今年的话题をまとめてみました。

今年は国内外でBAD NEWSが多い年となってしまいました。ロシアのウクライナ侵攻により、ロシア・中国・北朝鮮 VS 米国・EU・日本の溝が深くなり、共産主義（独裁政権）VS民主主義の構図がはっきりとしてきました。しかし、民主主義の国においても分断が深まっており、世界が混とんとして来ています。

また、今年は多くの有名人の訃報が相次ぎました。あれほど親しまれていた上島竜兵氏の自殺にはショックを受けました。学生の頃夢中で見ていたアントニオ猪木も最後まで病魔と闘って力尽きました。ご冥福をお祈りします。

それに明るい光をともしたのがスポーツではないでしょうか！？北京冬季オリンピック、大谷選手、村上選手、そしてワールドカップでのサムライジャパンの活躍が日本を盛り上げました。

新型コロナウイルスの感染拡大は収まりませんが、コロナ対策は大きく変わってきています。来年こそはコロナを克服してより明るい年になるよう祈るばかりです。

【スポーツ】

- ・2月北京冬季五輪、日本のメダル過去最多
- ・4月ロッテ佐々木朗希28年ぶり完全試合
- ・7月羽生弦引退
- ・8月大谷が2桁勝利、2桁本塁打
- ・10月ヤクルト村上選手56号本塁打、三冠王
- ・11月ワールドカップ、日本はドイツ、スペインを撃破しベスト16

【国内】

- ・3月ウクライナ大統領が国会演説
- ・4月知床半島沖で観光船が沈没
- ・4月円急落、一時131円台、20年ぶり
- ・7月安倍首相、銃撃され死亡
- ・8月五輪汚職、組織委元理事ら逮捕
- ・8月新型コロナ全数把握見直し
- ・10月新型コロナの水際対策大幅緩和
- ・10月32年ぶり円安、1ドル＝150円突破
- ・10月旧統一教会が政治問題化

【海外】

- ・2月ロシア軍、ウクライナ侵攻
- ・2月原油急騰、100ドル突破
- ・3月米FRB、ゼロ金利政策を解除
- ・5月スウェーデンとフィンランド、NATO加盟申請
- ・6月北欧2か国のNATO加盟合意
- ・6月英女王在位70年
- ・9月エリザベス英女王国葬
- ・10月習氏、3期目の権威確立

【訃報】

- ・石原慎太郎・西郷輝彦・宝田明
- ・藤子不二雄(A)・上島竜兵・島田陽子
- ・森英恵・稲盛和夫
- ・安倍晋三元首相・ゴルバチョフ元ソ連大統領・エリザベス英女王
- ・三遊亭円楽・古谷一行・アントニオ猪木
- ・仲本工事・渡辺徹

本年も大変お世話になり誠にありがとうございました。
来年も引き続きお引き立てのほど宜しくお願い申し上げます。

来年も皆様にとって健康で明るい年になりますよう心より
お祈り申し上げます。

